

| 学校名 | 研究課題 | 研究手法 |
|--------|------|---------|
| 新神田小学校 | 算 数 | 学習評価の充実 |

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 「学び合い、深める」ための手立ての工夫

「学び合うこと」を通して本時のねらいに迫る新たな気づきを促すため、「深める」ことを位置付けた指導の工夫をする。

- ①キーワードや算数用語などを板書に位置づけ、理解が深まるようにする。
- ②自分の考えを確かなものにするために、学習形態(ペアやグループの活動など)を工夫する。
- ③発問(問い返しや揺さぶり、確認など)を工夫し、児童の気づきをうながす。
- ④ワークシートや教材の工夫、さらに提示の仕方の工夫を行う。



ペア・グループ学習で確かめ合う



テレビを使って考えを伝える

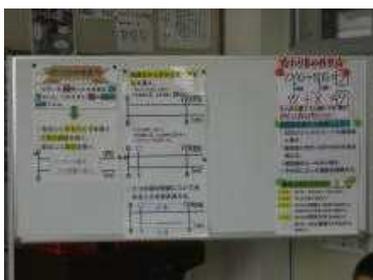


考えが深まる板書の工夫

(2) 重点2 「適用題」の工夫

授業でつけたい力が児童にどれだけついたかを確認するため、本時の学びを生かした適用題を工夫する。

- ①適用題の時間を適切に設定するために、課題の早期提示を行う。
- ②解決の見通しを持たせるための学習履歴を掲示する。
- ③「わけを問う」「式や図を読む」「どのやり方か判断させる」など、適用題の型を使う。
- ④児童の思考の流れに沿った見開き2ページのノート指導を行う。



前時までの学習掲示



ねらいに応じた適用題の工夫



2 取組の検証

(1) 重点1 「学び合い、深める」ための手立ての工夫

| ◆児童アンケート（肯定的回答の割合） | | |
|--|--------------------|--------------------|
| 項目 | 7月 | 12月 |
| 自分の考えを進んで発表している。 | 92.9% A評価:65.2% | 93.6% A評価:65.1% |
| 発表を通して友達の考えが分かる。 | 81.5% A評価:49.8% | 83.7% A評価:51.0% |
| ◆教員アンケート（肯定的回答の割合） | | |
| 項目 | 7月 | 12月 |
| 「学び合い」を意識した課題解決型の授業づくりに取り組んでいる。 | 90% A評価:50% | 100% A評価:63.2% |
| 話し合う活動を通じて児童が考えを深めたり、広げたりすることができるよう工夫している。 | 95.5% A評価:59.1% | 100% A評価:65.0% |

※A評価・・・よくあてはまる

①児童アンケートより

「発表を通して友達の考えが分かる」と感じている児童が、前期より増え、後期は2.2%上昇し、全校で83.7%であった。8割以上の児童が友達の意見を聞いて、理解が深められたと感じている。

②教員アンケートより

話し合う活動を通じて児童が考えを深めたり、広げたりすることができるよう授業づくりを工夫している教職員の割合が、前期95.5%から後期100%に上昇した。



ペア学習やグループ学習で互いの考えを聴き合う



全体でさらに考えを進化させる

(2) 重点2 「適用題」の工夫

| ◆児童アンケート（肯定的回答の割合） | | |
|---|--------------------|-------------------|
| 項目 | 7月 | 12月 |
| 算数の授業が分かる。 | 92.4% | 90.5% |
| ◆教員アンケート（肯定的回答の割合） | | |
| 項目 | 7月 | 12月 |
| 思考力・判断力・表現力等身に付けるための具体的な手立てを指導案に明記し、実践している。 | 94.1% A評価:41.2% | 100% A評価:72.2% |

※A評価・・・よくあてはまる

①児童アンケートより

「算数の授業が分かる」児童の割合が、前期と比較して後期は1.9%下回ったが、前期同様、肯定的評価が90%以上と高い結果が得られた。

②教員アンケートより

「思考力・判断力・表現力等身に付けるための具体的な手立てを指導案に明記し、実践している」教員の割合が、後期は100%に達した。児童の活用力を高めようとする意識の向上が見られた。

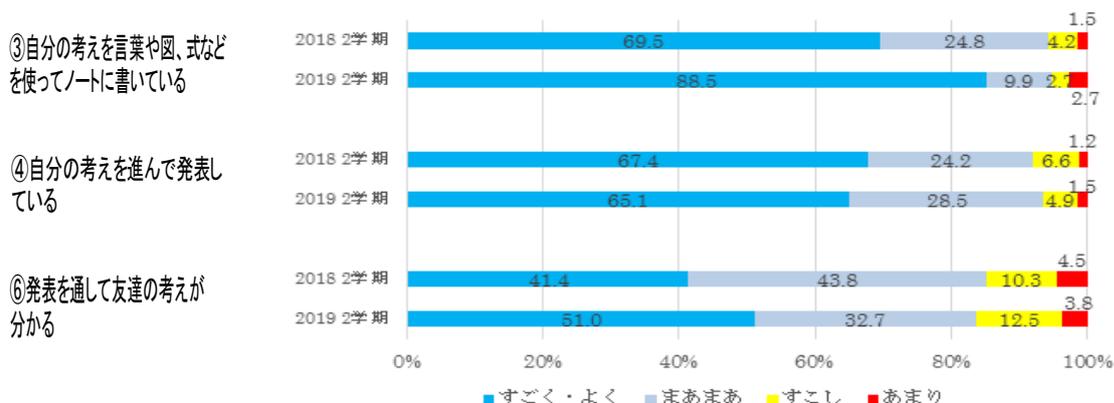


学習内容がどれだけ身に付いたか適用題で評価

3 成果と課題

(1) 重点1 「学び合い、深める」ための手立ての工夫

昨年度同時期の算数授業アンケートとの比較



①成果

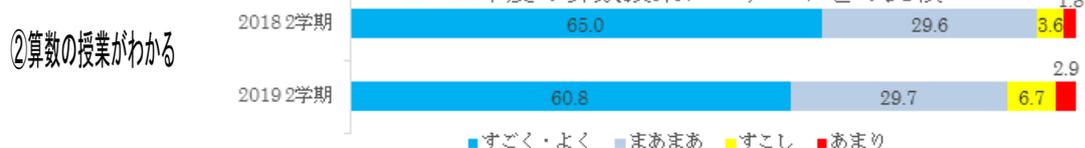
- ・少しずつではあるが児童が自分の考えをもち、進んで伝えようとする姿が増えてきている。
- ・「学び合い」を意識した課題解決型の授業づくりに組織的・協働的に取り組むことで、「発表を通して友達の考えが分かる」児童が増えてきた。

②課題

- ・「自分の考えをすごく・よく進んで発表している」児童は徐々に増えてきているが、全体としてはまだ半数であり、十分とは言えない。
- ・「発表を通して友だちの考えが分かる」と肯定的な回答をした児童は昨年度より若干減っている。学び合いを通して理解が深まる指導の工夫が更に必要である。

(2) 重点2 「適用題」の工夫

2018年度の算数授業アンケートとの比較



①成果

- ・導入や展開のタイムマネジメントを行い、適用題に取り組む時間を確保することで、児童の「わかった・できた」につなげることができた。
- ・本時のねらいに沿った適用題を準備したり、出題方法を工夫したりすることで、本時のまとめへ、次時の課題へとつなげることができた。

②課題

- ・児童の学びをより深めるために、適用題を解いた後、解答を互いに説明し合う時間を設定できるようにする。
- ・全校児童の約1割が「算数の授業が分かる」について不十分であることが分かった。授業の明確なねらいの設定、深い学び合いを生むための工夫、適用題の質の向上を通して、より一層の学力向上に取り組んでいく。